

令和 8 年度

第 1 回 学校運営支援協議会

期 日 令和 8 年 7 月 24 日 (金)

時 間 13 時 30 分～15 時 00 分

場 所 磐井ホール

次 第

進行：主幹教諭

委嘱状交付

1 開 会

2 校長挨拶

3 報 告

(1) 学校評価アンケートの結果について

(2) その他

4 熟 議

(1) テーマ

「子どもたちのために

学校・家庭・地域でできることは何か。」

ファシリテーター：県南教育事務所 主任社会教育主事

酒井 大輔 様

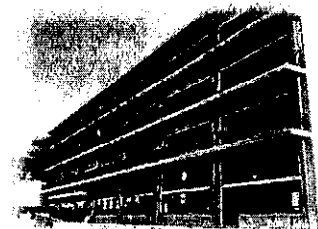
参加者：学校運営支援協議会委員

磐井中学校職員

10 グループによる熟議

(2) その他

5 閉会



《令和8年度 磐井中学校 学校運営支援協議会委員 名簿》

	氏 名	
1	菊 地 和 哉 様	一関学習交流館 館長
2	小野寺 邦 芳 様	山目市民センター 所長
3	小野寺 康 光 様	中里市民センター 所長
4	松 倉 琢 磨 様	P T A会長
5	澤 田 直 哉 様	元P T A会長
6	加 藤 清 様	初代校長
7	千 葉 美樹子 様	藤の園 副園長
8	須 藤 淳	校 長
9	小 崎 琢 磨	副校長
10	佐々木 一 成	主幹教諭

令和 8 年度

一関市立磐井中学校

第 1 回 学校評価アンケート結果

実施日 : 生徒

令和 8 年 6 月 22 日(月)

保護者・教員 令和 8 年 6 月 25 日(木)

令和8年度 学校評価アンケート 集計結果

1. 自分の考えや気持ち相手が相手に伝わるように話している。

2. 話をよく聴いている。

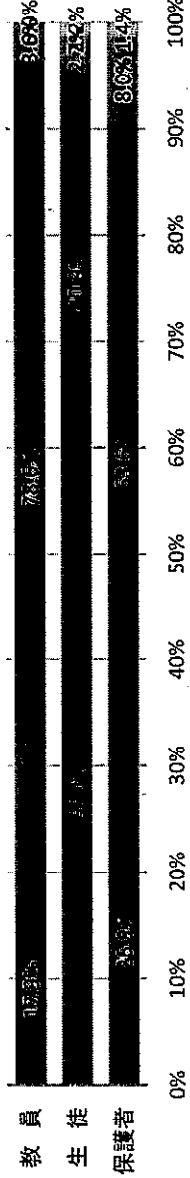
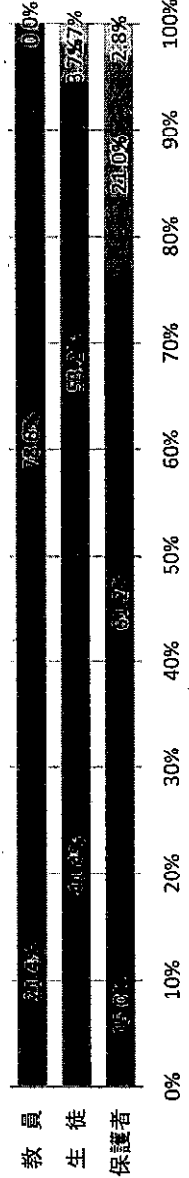
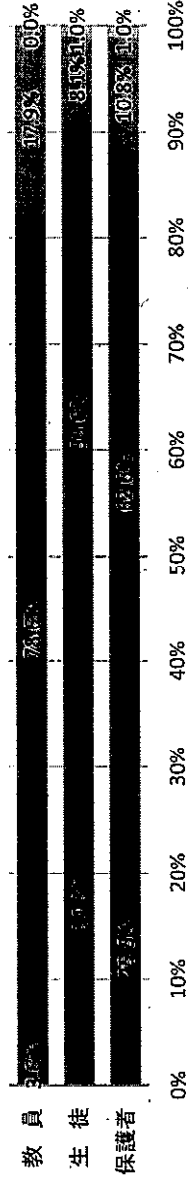
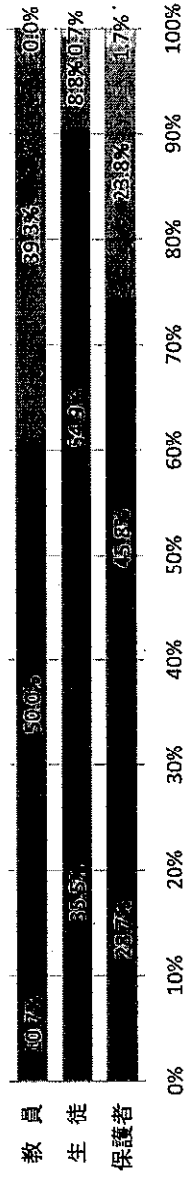
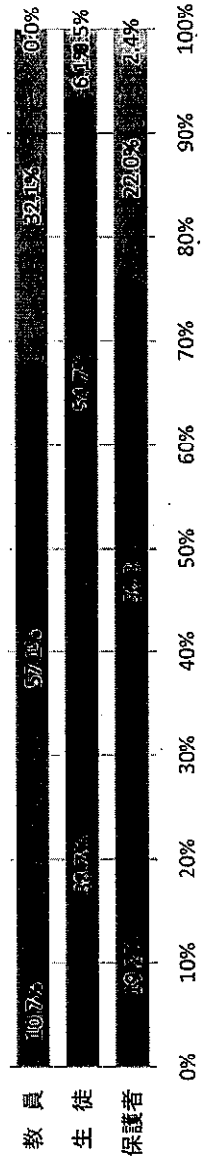
3. 学んだことを普段の生活や新しい場面に活かそうとしている。

4. 学校の授業は、内容が理解できるように進められている。

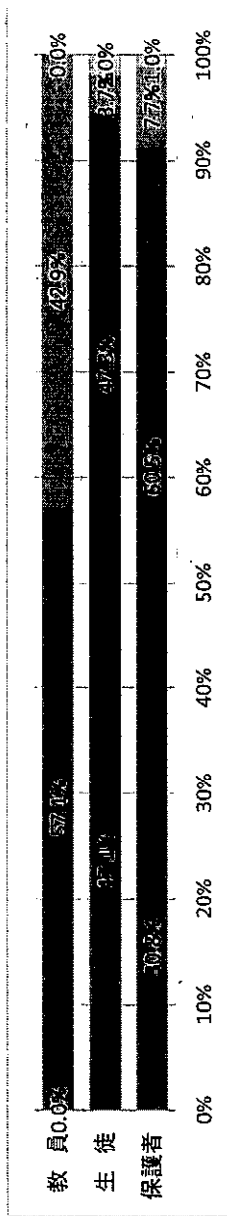
5. 学校では、ペアやグループで考えを伝え合う活動がよく行われている。

6. 明るい声で挨拶や返事をしている。

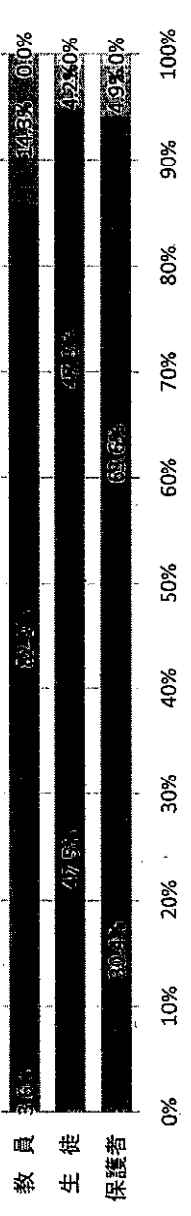
そう思う どちらかといえばそう思う どちらかといえばそう思わない そう思わない



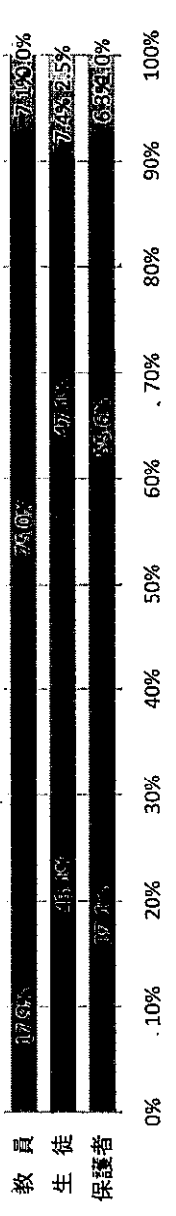
7. 相手の気持ちを考え、共感しようとしている。



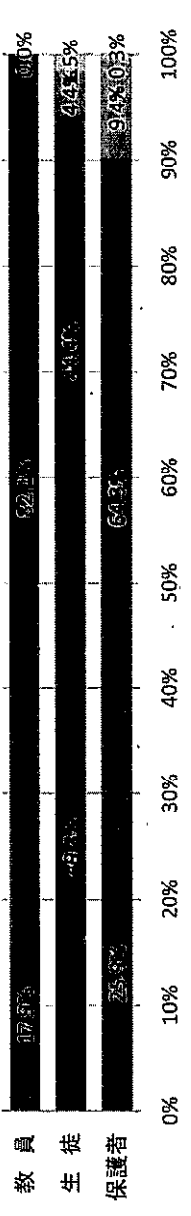
8. 一人ひとりの違いを認め、互いに助け合っている。



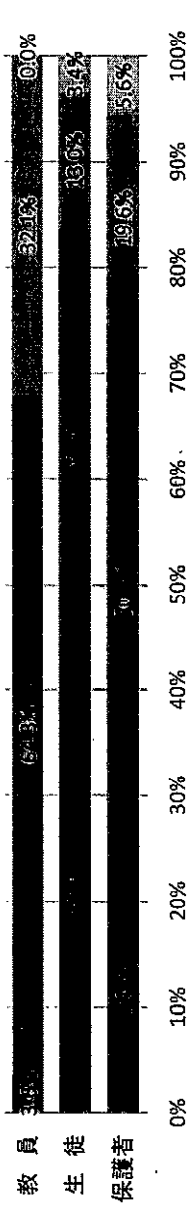
9. 学校は、登校時や授業の始まりに元氣な挨拶ができるよう取り組んでいる。



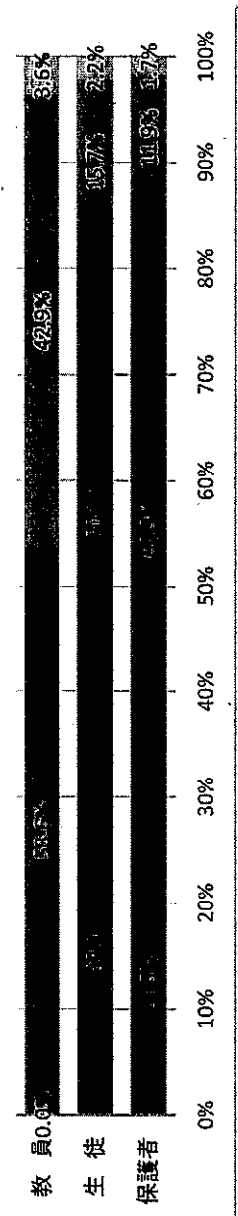
10. 学校は、さまざまな考え方や立場にふれる機会を設けている。



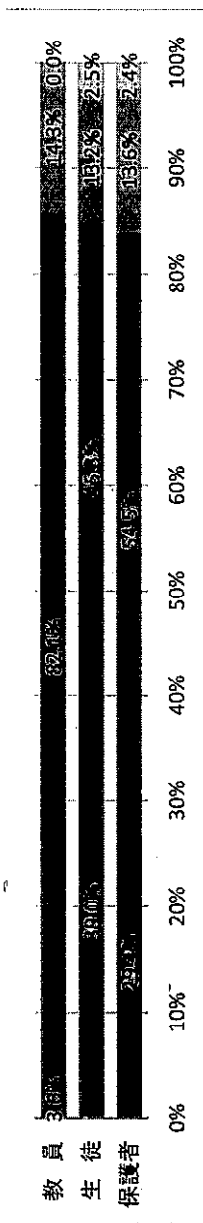
11. 運動・食事・睡眠など、健康的な生活習慣を身に付けている。



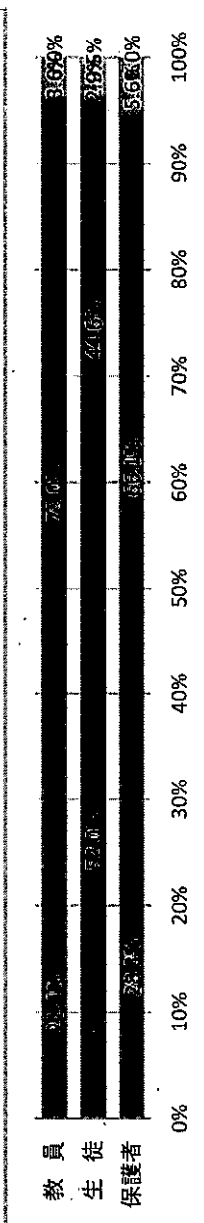
12. 感情に流されず、自分の行動をコントロールしている。



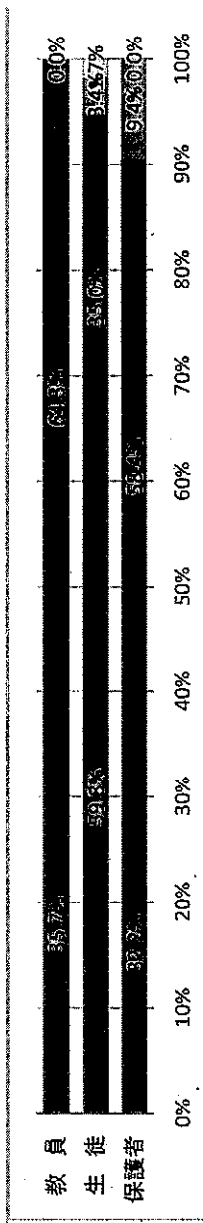
13. 物事を最後までやり抜いている。



14. 学校は、健康な生活習慣の大切さを学ぶ機会を設けている。



15. 学校は、インターネットやSNSの使い方と心身への影響について学ぶ機会を設けている。



令和 8 年度 第 1 回学校評価アンケート（総括）

1 検査期間

生徒 令和8年6月22日(月)

保護者・教員 令和8年6月25(木)

2 対象

生徒 408名 保護者 286名 教員 28名

3 質問項目と肯定的な評価

	項目	生徒	保護者	教員
■知(磨く知性)	1. 自分の考えや気持ちが相手に伝わるように話している。	93.6%	75.5%	67.9%
	2. 話をよく聴いている。	90.2%	74.5%	60.7%
	3. 学んだことを普段の生活や新しい場面に活かそうとしている。	90.9%	88.1%	82.1%
	4. 学校の授業は、内容が理解できるように進められている。	94.6%	76.2%	100.0%
	5. 学校では、ペアやグループで考えを伝え合う活動がよく行われている。	96.1%	90.6%	96.4%
■徳(豊かな感性)	6. 明るい声で挨拶や返事をしている。	83.6%	75.5%	67.9%
	7. 相手の気持ちを考え、共感しようとしている。	94.4%	91.3%	57.1%
	8. 一人ひとりの違いを認め、互いに助け合っている。	94.9%	94.1%	85.7%
	9. 学校は、登校時や授業の始まりに元気な挨拶ができるよう取り組んでいる。	90.2%	92.7%	92.9%
	10. 学校は、さまざまな考え方や立場にふれる機会を設けている。	94.1%	90.2%	100.0%
■体(鍛える身体)	11. 運動・食事・睡眠など、健康的な生活習慣を身に付けている。	83.6%	74.8%	67.9%
	12. 感情に流されず、自分の行動をコントロールしている。	82.1%	86.4%	53.6%
	13. 物事を最後までやり抜いている。	84.3%	83.9%	85.7%
	14. 学校は、健康な生活習慣の大切さを学ぶ機会を設けている。	96.6%	94.4%	96.4%
	15. 学校は、インターネットやSNSの使い方と心身への影響について学ぶ機会を設けている。	94.9%	90.6%	100.0%

「まなびフェスト達成状況」に基づく学校評価アンケート結果の考察

第1回学校評価アンケートの結果をまなびフェストの達成目標に照らして分析したところ、全ての項目で肯定的回答が高い割合を占め、本校の教育活動は概ね良好に機能していることが確認された。

1. 成果

「知」の領域では、「授業のわかりやすさ」や「ペア・グループ学習」において生徒の肯定的評価が高く、協働的な学びが定着している。これは、「わかる授業」や「共同学習の活性化」の取組の成果であり、授業改善が着実に進んでいると評価できる。「徳」の領域では、「思いやり」や「助け合い」「多様な価値観への理解」において高い評価が見られ、他者と関わりながら成長する集団形成が進んでいる。

「体」の領域では、健康やSNSの指導に対する評価が高く、計画的な教育活動が実施されていることがうかがえる。以上より、「磨く知性」「豊かな感性」「鍛える身体」の各側面において、一定の成果を上げているといえる。

2. 課題（質的な向上に向けて）

（1）表現力（伝える力）の課題

「自分の考えを伝える力」については、生徒は肯定的に捉えているものの、教員の評価では「そう思う」が1割程度にとどまり、保護者評価も相対的に低い。このことから、「伝えようとしている」段階にはあるが、まなびフェストで求められている「根拠をもって話す」「相手に伝わるように話す」の水準には十分に到達していないと考えられる。

（2）生活習慣・自己管理の課題

「健康的な生活習慣」や「感情のコントロール」の項目では、他の項目に比べて肯定割合が低く、特に教員の評価では否定的回答の割合が高い。また、家庭での取組（早寝・メディアコントロール）については、「実施が不十分」とする回答も一定数見られ、家庭との連携の弱さが課題として浮かび上がっている。これは、「自分の行動をコントロールできる生徒」や「基本的な生活習慣の確立」という目標に対して、個人差が大きくなっていることを示している。

（3）評価のズレ（認識の違い）

全体として、生徒の評価が高く、保護者や教員の評価がそれより低い傾向が見られる。このことは、「生徒の自己認識」と「大人側の評価」の間にギャップが生じていることを示しており、学習や生活の実態が家庭に十分伝わっていない可能性も考えられる。

（4）行動の質の課題

「挨拶」などの項目は達成しているものの、教員評価では否定的な割合も一定数あり、単なる実施から「質の向上（主体性・明るさ）」へと段階を上げる必要がある。

3. 今後の方向性

（1）表現力の質的向上

- ・根拠をもって話す指導の充実
- ・言語活動のさらなる強化

（2）自己管理力の育成

- ・生活習慣（睡眠・メディア）の改善
- ・感情コントロール指導の充実

（3）家庭・地域との連携強化

- ・家庭での生活習慣づくりの支援
- ・学校の取組の可視化と共有

（4）「できている」から「質を高める」段階へ

- ・挨拶・協働・学びの質の向上
- ・個に応じた支援と伸長の両立

4. まとめ

本アンケート結果は、本校の教育活動が着実に成果を上げていることを示している。一方で、表現力や自己管理といった内面的資質については、質的向上の段階にある。

今後は、学校・家庭・地域が連携しながら、生徒一人ひとりの自立を支え、「自立した学習者」の育成へとつなげていくことが求められる。

磐井中学校まなびフェスト

学校教育目標

豊かな心と創造性を持ち、心身共に逞しく自己を鍛える生徒の育成

自ら求めて学び、未来を拓く生徒

自他を敬愛し、思いやりのある生徒

自ら心身を鍛え、逞しく実行する生徒

めざす生徒の姿

知 磨く知性

- 筋道を立てて考え、根拠を話すことができる生徒
- 話をよく聴き、自分の思いを相手に伝わるように話す生徒
- 学んだことを様々な場に活かそうとする生徒

徳 豊かな感性

- 明るい返事や挨拶ができる生徒
- 他者と共感できる生徒
- 自他の個性を認め、励まし合い助け合う生徒

体 鍛える身体

- 基本的な運動、食、生活習慣を身に付けた生徒
- 自らの行動をコントロールできる生徒
- 物事をやり抜く生徒

学校の到達目標

- ◎わかる授業を展開します。
…生徒の肯定的評価目標80%
- ◎ペアやグループなど、共同学習を活性化させます。
…生徒の肯定的評価目標85%
- 《取り組み》
- ①基本的な学習過程を定着させ、自分の考えを表現する場の充実をめめます。
- ②共同学習の充実を図り、探究的な学習の質を高めます。

- ◎登校時の挨拶と、授業の始まりの挨拶を元気に行います。
…生徒の肯定的評価目標75%
- ◎多様な価値観にふれる機会をつくれます。
…生徒の肯定的評価目標80%
- 《取り組み》
- ①生徒会活動と連携します。
- ②道徳の授業や総合的な学習の時間で、協働学習の充実を図ります。

- ◎健康な体づくりへの意識を高め、生活習慣を確立します。
…生徒の肯定的目標75%
- ◎メディアの過度な利用が生活習慣や心身の健康に関与していることを学ぶ機会を増やします。
…生徒の肯定的目標80%
- 《取り組み》
- ①望ましい生活習慣について、繰り返し注意喚起します。
- ②調査をし、実態を可視化します。

家庭と連携して

- ◎家庭学習を毎日続けます。
- ◎適正なメディアコントロールを行います。
- ◎読書に親しみます。

- ◎あいさつを交わします。
- ◎時間を守って行動します。
- ◎「ありがとう」等、相手の心を温かくする言葉遣いをします。

- ◎必ず朝食を摂ります。
- ◎十分な睡眠時間を確保します。
- ◎適度な運動習慣を確立し、登下校の仕方等を工夫します。

地域とともに、心豊かな生徒を育てます。

- 《コミュニティ・スクール》
- ◎学校運営支援協議会を通じて目標やビジョンを共有していく「地域とともにある学校づくり」を推進
- 1 めざす生徒の姿の共有
- 2 学校HPを活用した情報発信
- 3 連携・協働のあり方の検討

- 《地域の教育人材・資源の活用》
- 1 人材、団体、自然、地域産業、文化財、施設等の有効活用
- 2 地域学校協働活動との連携（教育活動支援、環境整備支援、学校安全支援）
- 3 区長会、民生児童委員連絡協議会との意見交換

- 《保護者と連携した部活動改革》
- ◎将来にわたり活動に継続して取り組むことができる環境の整備
- 1 休日の部活動の、段階的な地域展開等に伴う、新たな課題への対応
- 2 自己肯定感を高めることができる活動のあり方の理解と共有

※『まなびフェスト』は学校の到達目標について、生徒の参加や家庭の協力、地域との連携を図りながら達成をめざすものです。

第1回学校評価アンケート（生徒）考察

1. 全体傾向（数値面の整理）

今回の生徒アンケートにおいては、全体的に肯定的評価（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）が高く、ほとんどの項目で80%以上の支持が得られている。特に高評価となっている項目は、「ペア・グループ活動」（96.1%）「健康・生活習慣の学習機会」（96.6%）「インターネット・SNSの学習機会」（94.9%）「授業の分かりやすさ」（94.6%）「他者理解・協力」（94.4%）が挙げられる。

一方で、比較的评价が低い（とはいえ80%前後）項目としては、「自分の考えを伝える」（93.6%だが「そう思う」が低め）「挨拶」（83.6%）「生活習慣」（83.6%）「自己コントロール」（82.1%）「やり抜く力」（84.3%）が挙げられる。

2. 成果

（1）学習・授業づくり

「授業の分かりやすさ」や「グループ活動」の評価は非常に高く、協働的な学びや分かる授業づくりが定着している成果が見られる。「グループで話すことが多い」「授業の進む速度がちょうどよい」といった記述も見られ、授業への肯定的な実感が裏付けられている。

→ 考察 対話的・協働的な学習の場は十分に確保されており、学習環境は良好である。

（2）人間関係・集団づくり

「他者理解」「助け合い」の項目はいずれも94%以上と高く、「思いやり」「多様性の尊重」「安定した人間関係」が育まれていると考えられる。「いろいろな人と関わっている」「様々な価値観に触れている」といった記述もあり、学校生活全体での人間関係の良さがうかがえる。

→ 考察 生徒同士の関係は安定しており、安心して学べる環境が整っている。

（3）学校の取り組み（特に情報モラル教育）

「SNS・インターネット」に関する学習機会は94.8%と高評価であり、「情報モラル教室がある」「講演会で学んだ」「危険性を理解している」という回答が多数見られた。

→ 考察 学校による意図的・継続的な指導が生徒の実感につながっている。

3. 課題

（1）表現力・伝える力

「自分の考えを伝える」は、肯定的評価自体は高いが、「そう思う」の割合が38.7%と低く、自信の不足や発展段階の課題がうかがえる。「意見が言えない」「周りに流される」といった記述も見られる。

→ 課題の本質 「論理的に考える力」「相手に伝わる表現力」の育成が十分とは言えない。

（2）生活習慣・自己管理

「生活習慣」「自己コントロール」は他項目より低く、自由記述からは、「睡眠不足（部活・スマホ）」「運動不足」「生活リズムの乱れ」が具体的に挙げられている。さらに、「感情をコントロールできない」「途中でやめてしまう」といった自己認識も見られる。

→ 課題の本質 「生活面の自己管理」「情緒面のコントロール」が継続的な指導を要する領域である。

（3）挨拶・基本的生活態度の質

「挨拶」は83.5%と一定の評価はあるが、自由記述では、「挨拶はしているが明るくない」という声が複数見られる。

→ 課題の本質 形式的な実施から、質（明るさ・主体性）への向上が必要である。

4. 今後の方向性

（1）表現力・思考力の育成

- ・根拠をもとに考え、説明する活動の充実
- ・発表・対話の場面の質的向上
- ・教科横断的な言語活動の強化

（2）生活習慣・自己管理の指導

- ・睡眠・スマホ利用を含めた生活指導の継続
- ・保護者との連携強化
- ・振り返り活動による自己認識の深化

（3）行動の「質」を高める指導

- ・挨拶や返事の「明るさ」「主体性」の意識化
- ・生徒会活動等と連携した取り組み

5. まとめ

本校の教育活動は、「授業改善」「協働的な学習」「人間関係づくり」「情報モラル教育」の面で着実な成果を上げている。一方で、「表現力」「自己管理能力」「生活習慣」といった「個の内面に関わる力」については、今後の重点的な育成課題である。今後は、教科指導・学級経営・学校行事を横断した取組により、「自立した学習者・社会的に成熟した生徒」の育成を目指していく必要がある。

学校評価アンケート（生徒）記述 まとめ

1. 良いと感じた点（評価）

① 自分の考えや気持ちを伝える

- 自分の気持ちや考えが相手に伝わるよう意識している。
- 学んだことを学校生活や家庭生活で生かしている。

④ 授業

- 授業の進む速さがちょうどよい。
- 分からないところを丁寧に教えてくれる。
- 学習内容を理解しやすいと感じている。

⑤ 話し合い活動・協働学習

- ペア学習やグループ活動が多い。
- 意見交流の機会がよく設けられている。
- 友達同士で教え合いながら学習できている。

⑥ あいさつ

- 自分から進んであいさつすることを心掛けている。
- 明るい声であいさつや返事をするよう意識している。
- あいさつ運動やあいさつ強化週間などの取組が行われている。

⑧ 仲間との関わり

- 仲間同士で助け合うことができている。
- 学級や学校全体の仲がよいと感じている。

⑨ 学校の取組

- あいさつ運動などの活動が行われている。
- 自分からあいさつする意識が高まっている。

⑩ 多様な学び・経験

- 総合的な学習や講演会で様々なことを学ぶ機会がある。
- 職業講話や社会体験学習、修学旅行など多様な経験ができる。
- 様々な価値観や考え方に触れることができる。

⑪ 健康的な生活習慣

- 食事・運動・睡眠に気を付けて生活している。
- 規則正しい生活を意識している。
- 部活動やスポーツを通して健康管理に努めている。

⑫ 感情のコントロール

- 感情に流されず冷静に行動することを意識している。
- 自分の行動をコントロールできていると感じている。

⑬ 最後までやり抜く力

- 学習や部活動、学校行事などを最後まで諦めずに取り組んでいる。
- 途中で投げ出さずにやり遂げることを大切にしている。

⑭ 健康に関する学び

- 保健体育や家庭科、講話などで健康について学んでいる。
- 健康的な生活習慣の大切さを理解できている。

⑮ 情報モラル・SNS

- 情報モラル教室や講演会が行われている。

- SNS やインターネットの正しい使い方や危険性について学ぶ機会が多い。
- 道徳や総合的な学習でも継続して学んでいる。

2. 改善点（要望・課題）

② 話を聞く態度

- 話を聞いていても集中できず、聞き流してしまうことがある。

④ 授業

- 授業内容が理解できないことがある。
- 分からない生徒への支援や説明を増やしてほしい。
- 授業で扱っていない内容がワークに出てくることがある。

⑤ 話し合い活動

- グループ学習や話し合い活動をさらに増やしてほしい。

⑥ あいさつ

- あいさつはしているが、明るい声でできていないと感じている。

⑦ 自分の考えをもつこと

- 周りの意見に流され、自分の考えを十分に伝えられないことがある。
- 自分の意見に自信がもてないことがある。

⑪ 健康的な生活習慣

- 睡眠不足や生活リズムの乱れが課題である。
- 部活動やスマートフォンの影響で睡眠時間が不足している。
- 運動不足や食生活への不安を感じている。

⑫ 感情のコントロール

- 感情的になってしまうことがある。
- 自分の気持ちをうまくコントロールできないことがある。
- 周囲の意見に流されやすいと感じている。

⑬ 最後までやり抜く力

- 課題や宿題を途中でやめてしまうことがある。
- 継続して取り組むことや最後までやり遂げることが苦手である。

⑭ 健康教育

- 健康や生活習慣について学ぶ機会をさらに増やしてほしい。

⑮ 情報モラル・SNS

- SNS やインターネットが心や体に与える影響についてもっと学びたい。
- 適切な利用時間や上手な付き合い方について考える機会を増やしてほしい。

第1回学校評価アンケート（保護者）考察

1. 全体傾向（数値面の整理）

保護者アンケートにおいては、全体的に肯定的評価（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）が高く、多くの項目で90%前後の支持を得ている。特に高評価な項目は、「ペア・グループでの学び合い」「思いやり・助け合いなどの人間関係」「多様な考え方に触れる機会」「SNS・インターネットに関する指導」が挙げられる。

一方で、相対的に「そう思う」の割合が低く、「どちらかといえば」が多い項目としては、「自分の考えを伝える力」「授業内容の理解」「生活習慣（特に睡眠）」「自己コントロール・やり抜く力」が挙げられる。生徒アンケートと同様に、「大きな否定ではないが、確かな定着には至っていない層」が存在することが読み取れる。

2. 成果

（1）学習・授業づくり

「学校の授業や学び合い活動」に対しては高い評価が得られている。保護者の自由記述においても、「授業で学んだことを家庭で話題にしている」「学びを生活に活かそうとする姿が見られる」といった記述があり、学習内容が日常生活へつながっている様子が確認できる。

→ 考察 協働的な学びや体験的な学習が、家庭にも波及する形で成果として表れている。

（2）人間関係・集団づくり

「相手を思いやる」「違いを認める」といった項目は非常に高評価であり、自由記述でも、「友達と明るく接している」「周囲を見て行動できている」などの記述が見られる。

→ 考察 学校生活全体を通じて、安定した人間関係と他者理解の土壌が形成されている。

（3）学校の取り組み（特に情報モラル教育）

SNS・インターネットに関する指導は特に評価が高く、「講座や授業が役に立った」「家庭で話題になり再確認できた」などの具体的な効果が多数報告されている。

→ 考察 継続的・組織的な情報モラル教育が、家庭との連携も含めた実効性ある取り組みとなっている。

3. 課題

（1）表現力・伝える力

「自分の考えを相手に伝える」については、「言いたいことを我慢してしまう」「伝える力が弱くグループ活動がづらい」といった記述が見られる。

→ 課題の本質 「自信の不足」「言語化の力の弱さ」が背景にあり、思考と言語の往還を伴う指導が必要。

（2）生活習慣・自己管理

生活習慣については課題の指摘が多く、「部活動等で帰宅が遅く睡眠不足」「就寝時間が遅い」「生活リズムが安定しない」など、具体的な実態が挙げられている。

→ 課題の本質 家庭環境・部活動・学習との両立の中で、時間管理・自己調整力が十分に確立していない。

（3）学習内容の理解・個別対応

一部では、「授業内容が理解できていない」「学力差の拡大（上位・下位の二極化）」「個別の学習相談が十分でない」といった意見が見られる。

→ 課題の本質 個々の学力状況に応じた支援や、家庭との連携が十分に可視化されていない。

（4）学校理解・情報共有

「子どもから話を聞く機会が少なく学校の様子が分からない」「取り組みが見えにくい」といった声も一定数見られる。

→ 課題の本質 学校の取り組みの質そのものよりも、保護者への発信・共有の在り方に課題がある。

4. 今後の方向性

（1）表現力の育成

・自分の考えを言語化し、伝える活動の充実 ・グループ活動での役割設定・支援の工夫

（2）生活習慣・自己管理支援

・睡眠やスマホ利用に関する継続的指導 ・保護者と連携した生活改善の取組

（3）個別最適な学びへの対応

・学力差に応じた指導（段階別・補習等） ・学習相談・助言体制の充実

（4）保護者への情報発信の強化

・学年通信・授業公開・デジタル発信の充実 ・学校の取組を「見える化」する工夫

5. まとめ

保護者アンケートからは、本校の教育活動が「協働的な学び」「人間関係の育成」「情報モラル教育」の面で確かな成果を上げていることが確認できる。一方で、「表現力」「生活習慣・自己管理」「個への対応（学力面）」といった「個の内面・基礎力」に関わる部分については課題が残る。生徒アンケートと同様に、「できている」から「質を高める段階」へ移行している状態であると捉えられる。

今後は、家庭との連携をより一層強化しながら、「自立した学習者」「自己管理できる生徒」の育成に向けた取組を推進する必要がある。

学校評価アンケート（保護者）記述まとめ

1. 良いと感じた点（評価）

① 自分の考えや気持ちを伝える

- ・ 相手の気持ちを考えながら会話しようとしている。
- ・ 自分の考えを押し付けずに伝えようとする姿が見られる。

③ 学んだことを生かす力

- ・ 学校で学んだことを家庭で話題にしている。
- ・ 授業で学んだ知識や友達から学んだことを生活に生かそうとしている。
- ・ 学校での出来事や学びについてよく話してくれる。

⑤ 話し合い活動・協働学習

- ・ 授業でグループ活動やペア活動が行われている。
- ・ 友達と協力して学習する機会が設けられている。
- ・ 子どもからグループ活動に関する話を聞くことがある。

⑥ あいさつ

- ・ 学校や部活動でのあいさつの習慣が日常生活にも生かされている。
- ・ 小学校時代よりもあいさつがしっかりできるようになったと感じる。

⑦ 思いやりや協力する力

- ・ 部活動などを通して周囲を見て行動したり、声を掛けたりする力が育っている。
- ・ 仲間をまとめたり支えたりする姿に成長を感じる。

⑧ 他者理解・人間関係

- ・ 友達や周囲の人の気持ちを理解しながら接している。
- ・ 自分の考えをもちながら人と関わることができている。

⑩ 多様な学び・経験

- ・ 授業や講習会、外部講師による講話など学ぶ機会が設けられている。
- ・ 多様な価値観や考え方に触れる機会がある。
- ・ 学校だよりや配布物からも学習機会の充実が伝わってくる。

⑪ 健康的な生活習慣

- ・ 食事・運動・睡眠を意識した生活ができている。
- ・ 学校生活を通して規則正しい生活リズムが保たれている。
- ・ 学校で健康的な生活習慣について指導してもらっていることに感謝している。
- ・ 部活動やスポーツ活動に前向きに取り組んでいる。

⑪・⑫・⑬ 生活面・心の成長

- ・ 以前より生活習慣や体力面が改善している。
- ・ 気持ちの切り替えや感情のコントロールができるようになってきた。
- ・ 学校行事や学習活動への参加意欲が高まっている。
- ・ 学校生活を前向きに捉える様子が見られる。

⑬ 最後までやり抜く力

- ・ 部活動や学校行事などで責任感をもって取り組んでいる。
- ・ 困難があっても諦めず努力している。
- ・ 目標に向かって粘り強く挑戦する姿が見られる。

⑮ 情報モラル・SNS

- ・ 情報モラル教室や情報リテラシー教育が充実している。
- ・ SNS やインターネットの使い方を学ぶ機会が定期的に設けられている。
- ・ 家庭でも SNS の使い方やルールについて話し合うきっかけになっている。
- ・ 問題発生時の対応が早いと感じている。

2. 改善してほしい点（要望・課題）

① 自分の考えや気持ちを伝える

- ・ 自分の思いや意見を伝えることが苦手で我慢してしまうことがある。
- ・ 学校での出来事や考えを十分に話せない場合がある。
- ・ コミュニケーションや相手の立場を考える力は発達途上である。

③ 学んだことを生かす力

- ・ 学んだことを理解していても実生活では十分に生かせていないことがある。
- ・ 自分の考えを伝える力やグループ活動への不安が見られる。

④ 授業・学習

- ・ 授業内容の理解が難しいと感じることがある。
- ・ 授業に十分参加できていないため様子が分からない。
- ・ 学習内容の理解度に個人差が大きいと感じる。
- ・ 学習方法や家庭学習について具体的な助言や相談体制の充実を望む声があった。
- ・ 英語などで学力差への対応を求める意見があった。

⑤ 話し合い活動・協働学習

- ・ ペア活動やグループ活動に戸惑いや苦手意識を感じる場合がある。
- ・ 活動の様子が家庭からは見えにくいという意見があった。

⑦ 思いやりや協力する力

- ・ 相手や状況によっては支援や協力が難しいと感じている。
- ・ 互いの価値観の違いへの対応に悩む場合がある。

⑪ 健康的な生活習慣

- ・ 睡眠不足や生活リズムの乱れが大きな課題となっている。
- ・ 部活動や習い事、学習のため就寝時間が遅くなりがちである。
- ・ 趣味や家庭での過ごし方により睡眠時間が不足している。
- ・ 早寝・早起きの習慣化が難しい。

⑫ 判断力・感情のコントロール

- ・ 周囲に流されず自分で判断する力をさらに伸ばしてほしい。

⑬ 最後までやり抜く力

- ・ 「やる」と言っても継続できないことがある。
- ・ 頑張れる場面と継続が難しい場面がある。
- ・ やり抜く力を育てる機会や学校の取組が見えにくいという意見があった。

⑮ 情報モラル・SNS

- ・ SNS に関する事件やトラブルが多いため、継続して指導してほしい。
- ・ 安全な利用方法やルールについて今後も繰り返し学ぶ機会を望む。

第1回学校評価アンケート（教員）考察

1. 成果

職員アンケートの結果から、学校の教育活動は全体として高い肯定的評価を示しており、まなびフェストに基づく取組が着実に成果として表れている。「知」の領域では、「授業の工夫」は肯定的評価が100%、「グループ学習」も約96%と高く、協働的な学びを中心とした授業改善が十分に進んでいる。「徳」の領域では、「助け合い」や「挨拶の取組」が高評価であり、学校全体として組織的な指導が機能している。また、生徒会活動を中心とした挨拶運動や人間関係づくりの取組が成果として現れている。「体」の領域では、「健康教育」や「メディア指導」が約96～100%と非常に高く、講演会や通信、食育・情報モラル教育などの取組が効果的に実施されていると評価できる。

以上より、本校はまなびフェストに掲げる「知・徳・体」の各領域において、バランスよく成果を上げているといえる。

2. 課題

（1）表現力（伝える力）の課題

「自分の考えを伝える力」は肯定割合約68%にとどまり、他項目と比較して低い。

自由記述でも、「言語能力の未発達により思いをうまく伝えられない」「トラブルにつながる」といった指摘が見られる。

→ 伝えようとする姿はあるが、根拠をもって相手に伝える力には課題がある。

（2）生活習慣・自己管理の課題

「生活習慣」は約68%、「感情のコントロール」は約54%と最も低い評価となっている。

自由記述では、「感情に任せた行動によるトラブル」「スマホ利用ルールの未整備」「自己コントロールの個人差」が指摘されている。

→ 一部の生徒に課題が集中し、個人差が拡大している。

（3）行動面・意識面の課題

「挨拶」は定着しているものの、「明るさや主体性」に課題があり、教師自身の関わり方（垂範）の重要性も指摘されている。また、「課題に主体的に向き合う力」や「他責傾向」など、生徒の意識面に関する課題も見られる。

→ 行動の定着から質の向上へと段階を上げる必要がある。

（4）家庭・社会との関係に関する課題

「メディア利用」や「生活習慣」に関して、家庭の影響が大きく、「家庭との連携の必要性」や「小学校との接続の重要性」が指摘されている。

→ 学校単独ではなく、家庭・地域との協働が不可欠である。

3. 今後の方向性

（1）表現力の質的向上

・根拠をもって話す指導の充実 ・言語活動・対話活動の強化

（2）自己管理能力の育成

・生活習慣（睡眠・メディア利用）の改善指導 ・感情コントロール・対人スキル指導の充実

（3）主体性・自治の育成

・課題解決に向けた話し合い活動の充実 ・生徒会活動等による主体的取組の推進

（4）家庭・地域との連携強化

・生活習慣やメディア利用に関する共通ルールづくり ・小中連携を含めた継続的な指導体制の構築

4. まとめ

職員アンケートからは、本校の教育活動が「授業改善」「協働的な学び」「組織的な指導」において高い成果を上げていることが確認された。一方で、「表現力」「自己管理能力」「主体性」といった内面的資質については課題が見られ、「できている」から「質を高める」段階にあるといえる。

今後は、学校・家庭・地域が連携しながら、生徒一人ひとりの自立を支える取組を一層充実させ、「自立した学習者」の育成へとつなげていくことが求められる。

学校評価アンケート（教員）記述

1. 良いと感じた点（評価）

⑥ あいさつ

- ・ 生徒会や学年執行部が中心となり、あいさつ運動などの取組を継続して行っている。
- ・ 学校全体であいさつの定着を図ろうとする意識が見られる。

⑭ 健康教育

- ・ 各種健康診断や給食指導、食育活動などを通して健康への意識を高めている。
- ・ 通信や講演会などを活用し、健康的な生活習慣について継続的に指導している。

⑮ 情報モラル・SNS 教育

- ・ 情報モラル教室や講演会を実施している。
- ・ 道徳や学級活動等を通して、インターネットや SNS の適切な利用について考える機会を設けている。
- ・ チラシや通信なども活用しながら、メディアリテラシー向上に取り組んでいる。

2. 改善点（要望・課題）

① 自分の考えや気持ちを伝える

- ・ 自分の考えや気持ちを適切な言葉で伝えることが苦手な生徒がいる。
- ・ 言葉による表現力の不足から、生徒間トラブルにつながる場合がある。
- ・ 相手に伝わる話し方やコミュニケーション能力をさらに育てる必要がある。

⑥ あいさつ

- ・ 生徒が明るく爽やかにあいさつできるよう、教職員自身が率先して手本を示すことが必要である。
- ・ 学校全体であいさつの質をさらに高めていく必要がある。

⑦ 他者理解・責任ある行動

- ・ 自分の課題を他者のせいにする傾向が見られる生徒がいる。
- ・ 自分自身を振り返り、責任を持って行動する姿勢を育てる必要がある。
- ・ メディアの影響も含め、長期的な指導が求められる。

⑩ 多様な学び・経験

- ・ 学校では様々な学習機会を設けているが、家庭との連携をさらに進める必要がある。
- ・ 多様化する家庭環境を踏まえ、生徒だけでなく保護者への働きかけも重要である。

⑫ 感情のコントロール

- ・ 感情に任せて行動したり、トラブルになったりする生徒が一部に見られる。
- ・ 相手を傷つける言動や衝動的な行動への対応が課題である。
- ・ 物事をよく考えてから行動する力を育成する必要がある。
- ・ 感情のコントロールについては、継続的・粘り強い指導が必要である。
- ・ スマートフォン利用によるトラブル防止のため、家庭でのルールづくりや小学校との連携強化も求められる。

全体を通して

- ・ 多くの項目において、生徒は一定の成果を示しているが、まだ自信を持って十分できていると言い切れない面がある。
- ・ 生徒自身が課題を自覚し、主体的に改善方法を考える力を育てていく必要がある。
- ・ 生徒自治をさらに活性化し、自ら考え行動する力を伸ばしていくことが今後の課題である。

令和8年度 第1回 学校評価アンケート結果報告

～次なるステージ「質の向上」と自立した学習者の育成へ～



一関市立磐井中学校 学校運営支援協議会

本日の要旨

【成果】水面上の達成
「知・徳・体」の基本領域において、生徒の肯定的評価は80%超、教育活動は概ね良好に進展。



【課題】見えてきたギャップ
生徒の「できている」という自己認識（自己評価）と、大人側（教員・保護者）の客観的評価の間に乖離が存在。



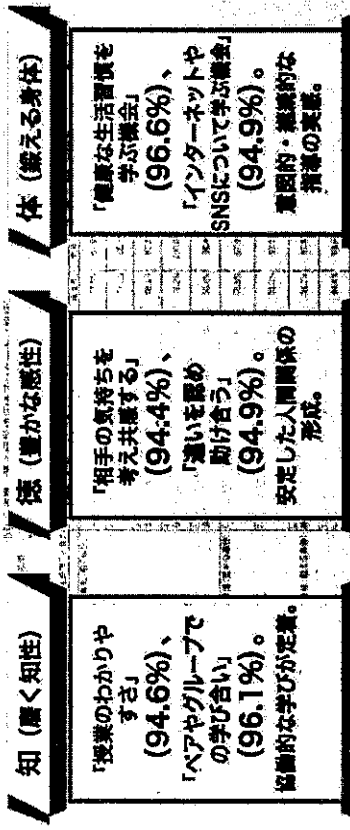
【核心】水面下の真因
「履修」「スマホ・メディア」「感情コントロール」の3領域において、生徒の「自己管理（自己調整力）」の不足が顕著に。



【展望】次なるステージへ
真に「できている」環境から、主体性と意欲を伴う「質の向上」の段階へ。学校・家庭・地域の連携強化が不可欠。

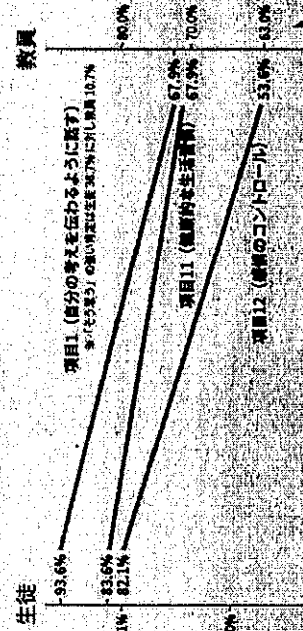


【全体傾向】水面上の成果：「知・徳・体」の定着



生徒の肯定的評価はほぼ全ての項目で80%を超え、本校の教育活動は着実に成果を上げています。

【全体傾向】見えてきたギャップ：生徒の自己認識と大人の目



生徒自身は「できている」と感じているが、客観的な大人の目から見ると「十分ではない」項目が明確に存在、これが次なる課題（氷山の水面下）を示唆している。

【課題1】睡眠と自己管理 ～「知っている」が「できていない」～

67.9%



「健康的生活習慣」の
教員評価が低迷

「朝、起きる姿を見ると、健康的な睡眠時間ではないのかも知れない。」（保健室）

「早く寝ることは心掛けていますが、朝遅くスマホの充電がなくなるので遅い寝ています。」（生徒）

【核心】単なる夜更かしや知識不足ではない。部活動や学習との両立の中で、（時間と行動を）管理する「自己管理」が真の課題。

【課題3】感情コントロールと表現力
～発達段階の壁～

53.6%

「感情に流されず、行動をコントロールしている」の教員評価が全項目で最低

感情・衝動

行動

「みえる前に発声してしまい、取り返しかつからないことがある」
「他はなまそくが振れている」（教員所見）

感情

論理的思考
根拠

行動・表現

【核心】中学生特有の「発達段階」における課題。

の育成が急務。

【課題2】スマホ・メディア ～表層的満足と実践の壁～



・「インターネットやSNSの使い方の学習機会」の評価は極めて高い（教員100%、生徒94.9%）
・情報モラル教室や指導の機会は十分に機能している。



「家庭においてスマホの使用についてのルールづくりが進まない」（教員所見）

【核心】情報モラルを（ ）として持っているか、（ ）が依然として となっている。

【核心の統合】根底にある「自己管理能力」「表現力」の課題

睡眠
(身体的自己管理)



スマホ・メディア
(環境的自己管理)

感情
(心理的自己管理)

「感情のコントロール」が中学生には、自分を律する、これら四者は、非常に重要で、育てなければならない。

熟議テーマ

「子どもたちのために
学校・家庭・地域でできることは何か」



コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み

資料 1



＜学校運営協議会の主な役割＞

地教育法第四十七条の五

教育委員会が、学校や地域の実情に応じて学校運営協議会を設置

- 校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること
- 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができること
- 教職員の任用に関して、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べることができること

